

サントリー文化財団

「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成」中間報告会レジュメ

学習院大学国際センター 准教授 小林立明

1. 研究テーマ

「ソーシャル・ファイナンスを促進する制度的基盤に関する比較研究—東アジアにおけるエコ・システムの構築に向けて—」

2. 研究目的

拡大し、多様化する社会的課題を解決するためには、非営利セクターの伝統的な資金調達手法である寄付・助成金だけでなく、社会的インパクト投資、NPO・社会的企業向け融資、NPO債や社債発行、クラウドファンディングなどの多様な資金調達手法の開発が求められる。本研究は、こうした社会的リターンと経済的リターンの双方の実現を追求する資金調達手法を「ソーシャル・ファイナンス」と捉え、主要先進諸国との比較研究を通じて、日本を含めた東アジアにおける発展の制度的基盤を検討する。

3. 進捗状況

(ア)2018年8月 準備会合（研究課題の共有、論点整理、スケジュール調整等）

(イ)2018年9月 第一回研究会（ソーシャルファイナンスのグローバルな市場規模と主要制度的基盤の概観、発表：小林）

(ウ)2018年12月 第二回研究会（東アジアにおけるベンチャー・フィランソロピーの発展の現状、発表：伊藤）

(エ)2019年1月 公開講演会（欧州とアジアにおけるベンチャー・フィランソロピーの発展の比較、発表：ロブ・ジョン博士）

(オ)2019年1月 第三回研究会（ベンチャー・フィランソロピーの具体的手法とエコシステム、モデレーター：ロブ・ジョン博士）

4. 今後の予定

(ア)2019年2月 第四回研究会（欧米におけるソーシャル・インパクト・ボンドの発展と求められるエコシステム、発表：小林、幸地）

(イ)2019年3月 第五回研究会（地方創生とローカル・ファイナンス、発表：深尾）

(ウ)2019年4月 第六回研究会（SDGsと社会的インパクト投資、発表：調整中）

(エ)2019年5月 総括会合（報告書執筆のための論点整理）

5. 主要論点

(ア)ファイナンス領域における「社会的価値」の標準化

(イ)制度的基盤における中間支援組織の重要性

(ウ)「ソーシャル・ウォッシング」や「ミッション・ドリフト」などの問題

(エ)ブロックチェーンやフィンテックの活用の可能性 等